

木蘭

杉ひらぎのごとくなるものあり、いづれも挿花に用ふる也、此幹を撓めむすぶ方紙を枝に巻て水を浸し火にかけて焼ば、自由に曲るといふ、傳は大概同じけれど、其傳のごとくしてならざることあり、是は理のみを知て、其わざわざに拙きゆゑなり、此紙を巻を雜巾に換て巻べし、又水に浸すを、沸湯を澆ぎて火に炙るべし、さて火氣通るまで炙て、一時には曲りがたしい、まだ和らがざる所はよく炙て徐々に撓る也、急速にすれば弾ける也、さて曲結て冷水に入るれば反ることなし、是燒刃を入るにひとし、幹は二年物三年物よし、是傳也、

〔和漢三才圖會八十四〕狗骨南天俗稱

按、近頃自賀州山中出異樹、其木身皮枝狀似南天燭、葉亦不甚厚、有南天葉樣而有五尖刺、兩兩相對一朶十二三葉、三月開小黃花、夏結實似狗骨子而黑色、乃狗骨與南天相半者、

〔本草和名十二〕木蘭、一名林蘭、一名杜蘭、出大宰、

〔倭名類聚抄二十〕木蘭 本草云、木蘭一名林蘭和名毛久良邇

〔大和本草十二〕玉蘭花花十二 園史遵生八牋花史等ニ詳ニ記セリ、花紫白ノ二種アリ、國俗紫ヲ木蓮ト云、花色アシ、白ヲ白木蓮ト云、白花ヲ爲好、

老學菴ガ筆記ニ記セル木蓮ハ、與之不同、

西陽雜俎續編曰、木蓮、花葉似辛荑、花類蓮、花色相傍、今案ニ、辛夷ト相類ス、故ニ相接ベシ、冬ツボミヲ作リ三月ニ開ク、

〔和漢三才圖會八十二〕木蘭 木蓮 杜蘭 林蘭 黃心 和名毛久良邇略

按、木蘭出於和州大峯者、花如山茶花、六月開有紫白二種、未見紅黃者也、
畫譜云、木蘭花未開者、澆以糞水、則花大而香、其瓣擇沈精潔、枹麵油煎食、

〔草木性譜人〕木蘭 附 玉蘭